



日本歯科医師会
PRキャラクター よ坊さん(富山版)

全身の健康につながる 口腔の健康

参加費無料
先着200名まで

参加者に粗品進呈



日本歯科総合研究機構
主任研究員

つねいし みどり
恒石 美登里

日時

2019年 3月17日

開場
9:00

講演

9:30~11:30

会場 富山国際会議場2F 富山県富山市大手町1-2

歯と口のケアで多くの病気のリスクを下げられる

歯周病は歯を失う原因の第1位ですが、歯周病の怖さは歯を失うだけではありません。
今回は、歯科疾患と全身の病気の関わりについてみていきます。

認知症

歯周病による動脈硬化は、脳血管性認知症の原因となりえるとされています。また、歯周病とアルツハイマー型認知症の関連も米国の研究で示唆されています。

糖尿病

歯周病になると分泌される炎症物質がインスリンの働きを妨げ血糖値が上がるといわれています。高血糖による血管のダメージで歯周病が悪化する悪循環も。

糖尿病・肥満

相互に危険因子となる

歯周病

肥満

歯周病菌の毒素で肥満が進行するといわれています。脂肪の増加で分泌されるアディポサイトカインが歯周病を悪化させる悪循環も。

歯を大切にしないことで生活習慣病のリスクも

早産・低体重児出産

妊娠中はホルモンの変化などにより、歯周病になりやすくなります。歯周病の炎症物質により早産・低体重児出産につながることも。

噛むこと、
ケアすることは
健康にとって
とても大事

心疾患

歯周病による動脈硬化が心臓の血管を詰まらせ狭心症や心筋梗塞につながるなどの報告が多く認められています。また心筋の内膜に歯周病菌が付着し炎症を起こします。

誤嚥性肺炎

歯周病菌の含まれた唾液が気道に入ることによって誤嚥性肺炎のリスクが高まります。飲み込む力が低下した高齢者に起きやすく、日本人の死因の上位を占めます。

リウマチ

手足の関節が腫れて痛みやこわばりが生じる関節リウマチは、歯周病と同様に炎症性サイトカインとの関係性が示唆されており、歯周病を治療するとリウマチの症状が軽くなることもあります。

当日の講演内容の一部

- 自分の歯が多いほど認知症や骨折・転倒になるリスクが減少し、医科医療費は少なくなる
- かかりつけ歯科医を持ち、定期受診することは将来投資になる
- 口腔疾患・オーラルフレイル対策には日頃からの予防やセルフケアが大切